

合格例

〈試験官に関して〉

- NS: 50代か。男。アメリカ人と思われるが不明。茶色のヒゲがいい感じ。特になまりもなく聞きやすい部類に入る。初めの名前と質問以外は全てこの試験官が担当。
- TG: 50代～60代か。女。終始にこやか。名前と住所を提携分で尋ねてきただけ。
- GO: 確か50代くらいの男性。それ以上は一切覚えていない。

〈特別付録：会場の雰囲気・全体の流れ・個人的行動〉

11:00 集合の私は10:30ごろ到着。ガラス棟では案内掲示はなし。エレベータの前の広いホールでは生け花展らしきものが開催中。このビルで試験が行われているなど当事者しか知らないと思われる。コンビニで某ミント菓子を購入して6階に上がる。と、ようやく小さな案内看板。受付を済ませる。受験者はほぼ例外なくきちんとした格好で男性はスーツ、女性もフォーマルな服装だった。着物の一人も居ればいいのに。

控え室は思ったよりもだいぶ広く、100人近く収容できそう。平均年齢は見た目30代後半だろうか。やはり女性が多い。20代男性は私だけだったかも。受験番号順で一度に4人程度呼ばれて各試験室前に並んでいる椅子(4つ/部屋くらい)に誘導される。英検二次を受けたことのある方なら想像できるだろう。2次セミナーで一緒になった方の姿もあった。私はヒマだったので見直しをして、それでもヒマだったのでトイレで身だしなみを整える。

控え室に戻ったら、ちょうど呼び出されていた。係りのひといわく「次です」。ええっ？ドアのすぐ横の椅子に横入り。一気に心臓バクバク。深呼吸と飲み物と某ミント菓子を口に含む。少し落ち着いた。「FOISK sharpened me up」でした。買って置いてよかった。

前の人がでて、5分か10分くらい待ったあと、係りの人がドアを開けてくれた。中に入って正面には長机と短めの机。左からTG,NS,GOが並んでいる。私の側には2つ椅子が置いてあり、一瞬どちらに座るのか迷った。相手との距離はセミナー通りやや遠め。座ると机が胸の高さ近くあり、最初は手を膝の上においていたが、そのうち身振りを交える関係から机の上に組んで置くようにした。座り心地はよい。

終わるときは自分で思い扉を開けて出た。そのまま解散。試験修了は11:25ごろだったので、少なくとも、午前中は時間通りスムーズに進行していた模様。

〈面接試験の実際〉

メモと記憶を頼りに、間違いも含めなるべく忠実に再現しました。話し言葉はこの程度です。添削してみて、「こんなんでいいのか」と安心してください。

-
- I: Good morning. (NS,TG はにこにこしているが返事はなし)
- TG: Please take a seat.
- I: Can I put my bag here? (と聞いて荷物を置き、着席)
- TG: May I ask your name?
- I: My name is XXXXX XXXXXX.
- TG: XXXXX-san, where do you live?
- I: I live in XXXXXXX, Tokyo.
- NS: My name is XXXXXX XXXXX. I live in Kawasaki.
- I: In Kawasaki? That's a nice place. (落ち着くためにも雑談したい)
- NS: Did you grow up in XXXXXXX?
- I: Yes, for my whole life. Tokyoite.

NS: Good. I'm going to ask you three questions, kind of tourist-like questions, OK?
(と言って手元の紙を見ていた)

NS: Why are so many Japanese people eager to take examinations?

I: (受験戦争のことかと思ひ)Examinations? You mean the entrance examinations?

NS: Well, no, professional qualification, like secretary or...

I: Ah, OK. And Tour guide.

NS: Yes.

I: Ah, that's mainly because the license will prove the ability of the person. That's the main cause. And for especially the young people who do not have a professional skill by himself or herself, they have to get license, officially recognized license, in order to get a job or other things.(後から思えば、中高年のリストラ対策がメジャーな答えだったらしい)

NS: That's true. But why is it so popular here in Japan, not in like the United States?

I: (日本特有なのはなぜだろうと、自問しつつ)Maybe license is the only thing that proves the ability. Because maybe(また maybe を入れてしまった)in the United States, an individual ability can also be valued by other means like a supervisor's eye or other things.(ホントかよ?)But in Japan, officially, license is the most important.

NS: OK. Good to know.

NS: ☆○□▼+@,(ここまで聞いてなかった)he seems to be really popular as an icon. (an icon,とあいづちは打ったが) Why is that?

I: (にこにこしながらも「誰のことだ?」)Sorry, I can't hear the first two words. (と尋ねざるをえない)

NS: (はっきりと)David Beckham.

I: David Beckham, OK. (個人的には好きでも嫌いでもないが) He is of course handsome, and popular among young women, ladies. And one reason is the skill of soccer. But another reason is, (...なんだろう?) Japanese people tend to regard the professional, not only the sports but for example a politician like Mr. Koizumi, who is the current Prime Minister, as an icon. It is because Japanese want to respect the other person. So Beckham is not only talented in soccer, but also regarded as a figure, the object of respect.

NS: OK.

NS: There is a Japanese festival in summer called Obon. Tell me something about Obon.

I: (盆踊りを意識して)Festival of Obon?

NS: Yes.

I: Obon is, (まずお盆がいつかわないと、と思ひ) at the first, Obon is in the mid of August, August 15th (控え室で目を通していた本の内容を思い出しながら) And the Obon festival is to celebrate the spirits of the ancestors. Usually in the Obon period, there is a local festival, typically in shrines. There are many stalls all along the street to the sanctuary. And at the time, they dance in front of the sanctuary. It is the inviting party or like that for the spirits of ancestors.

NS: But is that a happy thing?

I: Ah, yes, it's true. Because Japanese believe that they live with the ancestors, even if they are not alive. So they want to be with the ancestors.

NS: And when is it?

I: When is it? (最初に言ったはずなのに～) It's August 15th.

NS: August 15th. OK, good (後で調べて、7月の地方もあるのを思い出した。だから聞いてきたのか。) We just run out of time. ...

〈反省点など〉

自分の反省は書きません。皆さんの役に立つものとは思えないので。それよりも、2次を受験し終えての私なりの分析を書こうと思います。

他の英語の試験と比べて、ガイドの2次は英語力そのものの比重はそれほど大きくないようです。私は理系の大学院生で一月以上の海外とこう経験はありません。普段英語を話すような友人もいません。これを書いているのは2次の合格通知を頂いた後ですので、「英語が専門」「長期の海外経験」「仕事で英語を使用」は少なくともガイド二次合格の必要条件ではないようです。英語の正確さ、冠詞や時制、単数・複数の別など、おそらく多くの皆さんが苦手としているところでは私も例外なく苦労しています。書くのでも困るのに、ましてや話すときも正しく使いこなせている方はガイド二次受験者といえどもそれほどいないのではないのでしょうか。むしろ、日本のことを生活に密着した形で知っているか否かが重要です。この観点では、若い人、特に帰国子女の方々には少々不利かもしれません。私が試験で問われたお盆に関しても、たいていの方は私よりももっとマシな回答ができるでしょう。近年は日本事象が必ず一つは問われるようですので、付け焼刃的に覚えてしまうのも最後の手段としては仕方ないところかもしれません。

ここまでを総合すると、「日本で生活してきた英語好き」に有利に働くような試験と思われると思います。これは、試験の意味を考えると妥当なところではないのでしょうか。ただし、学習方法の多様化により全体的なレベルがあがり、それに伴って二次試験のレベルも上がっているように思います。英検1級の2次のスピーチを、原稿の暗記なく即興で出来るくらいは欲しいところです。

さらに重要なのは、これは感覚的なものですが、「英語力半分+人物半分」という点です。正直、文章に起こしたレポートで合否判定すればまったく違った結果になると思います。Albert Mehrabian という学者によればメッセージの伝達力=verbal 7%+vocal 38%+facial 55%であり、話し方やジェスチャー、表情が9割を占めるそうです。ガイドを雇う身になれば、熱心さや人間的な親しみも望みますから、人物はむしろ半分以上かもしれない。D氏の BE CAREFUL は、この意味で重要なアドバイスです。

最後に一言。この文章は英語受験者用ですが、英語が全てではありません。日本語も含め、世界中には言語が何千とあります。英語狂信者にならないように…